

## 千葉療護センター入院患者の退院先についての検討 —MSWの関わりを通じて—

<sup>1</sup>自動車事故対策機構 千葉療護センター メディカルソーシャルワーカー、

<sup>2</sup>自動車事故対策機構 千葉療護センター 脳神経外科

○石川 里香<sup>1</sup>、岡田 純子<sup>1</sup>、岡 信男<sup>2</sup>

**【目的】** 千葉療護センターを退院した患者について、どのような要素が退院先を決める上で影響しているのか、MSWとしての関わりを通じて検討した。

**【方法】** 1997年10月以降に入院した130例のうち2009年3月末までに退院先が確定した患者69名を対象とし、退院先、重症度、家族関係、在宅サービス導入状況、経済的要因から関係性を検討した。

**【結果】** 退院先は自宅35名(内8名は他病院を経て自宅へ)、施設28名、病院6名であった。重症度と退院先には因果関係はなかった。親が子をみる介護関係が78%、夫婦間介護が12%であった。全事例の62%で主介護者以外に同居のサポート者が得られていた。自宅介護事例のうち『同居サポート者あり』は83%、『同居サポート者なし』は17%であった。退院時にデイサービスと短期入所を確保できたのは34%だった。施設入所事例のうち『同居サポート者あり』は36%、『同居サポート者なし』は64%であった。経済的な要因では患者が無年金または損害賠償がない事例では、病院を選択していなかった。

**【考察】** 退院先として自宅・施設を選択する場合は、家庭内に複数の介護者が確保できるかが影響する場面が多い。一方で、同居サポート者がいない事例や介護負担軽減に資する在宅サービス利用が見込めない状況でも自宅介護を選択しているのは、家族が納得できる環境で長期に療養可能な機関が少ないためであると考えられた。病院を選択する場合は経済的な補償の有無が影響する場面が多い。当センターの入院患者は比較的若く、親が子をみる介護関係が多いことが特徴的であり、家族が既存の医療・福祉サービスの不足を補っている現状が伺えた。